

VOL.673

# 京 印 季 報

NEW YEAR | 2026

新年号



<https://kyoinko.jp>

# KYOKINKIHO

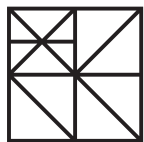
*Special Feature;*

## 新春特別企画

教育研修セミナー「印刷会社の経営者が今、知っておくべき生成AIの現状」



京都府印刷工業組合



VOL. 673

## 目次

1. 巻頭言／京都府印刷工業組合 副理事長 内藤一徳
2. 年頭所感／京都府印刷工業組合 理事長 爲國光俊
3. 京都府知事 西脇隆文
4. 京都市長 松井孝治
5. 京都商工会議所 会頭 堀場 厚
6. 京都府中小企業団体中央会 会長 安藤源行
7. (一社)日本印刷産業連合会 会長 鷹 秀晴
8. 全日本印刷工業組合連合会 会長 瀬田章弘
9. 京都府製本工業組合 理事長 大入達男
10. 京都府紙器段ボール箱工業組合 理事長 中川 仁
11. (一社)日本グラフィックサービス工業会京都府支部 支部長 立木哲生
12. 京都紙工協同組合 理事長 波部郁司
13. 京都シール印刷工業協同組合 理事長 山田裕彦
14. 京都グラフィックコミュニケーションズ協同組合 理事長 木村 進
15. 教育研修セミナー「印刷会社の経営者が今、知っておくべき生成AIの現状」
16. 全印工連創立70周年記念行事開催
17. 全印工連会長特別表彰を受ける
18. ～印刷感謝祭～ 本木祭並びに組合員物故者を偲ぶ会開催
19. 労務対策セミナー開催
20. ～京都ものづくりフェア2025～ 京都府印刷関連団体協議会と合同出展（リアルパート・Webパート）
21. 京都府知事表彰を受ける
22. 令和7年度職業能力開発関係厚生労働大臣表彰を受ける
23. 北部地域懇談会開催
24. 特別交流事業「京都サンガF.C. 観戦ツアー」開催
25. 統計だより／材料価格定点調査・集計結果より
26. 委員会だより／共済委員会
27. 支部だより／上支部
28. 中支部
29. 下支部
30. 東山支部
31. 会合だより／京都印刷協和会
32. いそじ会
33. 京都府印刷関連団体協議会
34. ポストプレス部会
35. 京都青年印刷人月曜会
36. 関連団体だより／京都府紙器段ボール箱工業組合
37. 組合員 NEWS
38. 定例理事会開催概要
39. 事務局からのお知らせ
40. よしみ散歩 ～印刷会館周辺地域のご紹介～
41. 印刷会館利用状況
42. 組合日誌
43. 組合員異動
44. 訃報
45. 表紙写真紹介
46. 編集後記

令和 8 年 | 新年号

NEW YEAR | 2026

## 巻頭言



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

組合員の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。平素より、京都府印刷工業組合の諸活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は丙午年であります。古来より午は、力強く大地を駆け、前へ前へと進む象徴とされてまいりました。私自身も還暦という節目の年を迎え、これまでの歩みを礎としながら、組合のリーダーとして次の時代へ踏み出す決意を新たにしております。変化の激しい時代にあっても、歩みを止めることなく挑戦を続ける、まさに今の私たち印刷業界にふさわしい干支であると感じております。

原材料価格の高騰や人手不足、デジタル化の急速な進展など、業界を取り巻く環境は、依然として厳しさを増しております。一方で、情報の信頼性や表現の質がこれまで以上に重視される今、印刷が持つ「確かに伝える力」「形として残す価値」は、改めて見直されつつあります。

千年の都・京都に根差す私たちの印刷技術は、文化を守り、想いをつなぎ、未来へと橋渡しをする重要な役割を担ってきました。デジタルとアナログの融合、環境への配慮、そして新たな付加価値の創出に果敢に挑みながら、業界全体の発展に向け、組合員の皆さまとともに歩みを進めてまいりたいと考えております。

本年も組合員相互の連携を一層深め、次代を担う人材育成と持続可能な業界づくりに取り組んでまいります。午年のごとく力強く駆け抜ける一年となることを願い、新年のご挨拶といたします。

京都府印刷工業組合

副理事長 内藤 一徳

# 年頭所感

## 2026年 新年のご挨拶

京都府印刷工業組合  
理事長

爲國 光俊



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は、京都府印刷工業組合の事業活動にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年を振り返りますと、人口減少による働き手不足、価値観の多様化、急速なデジタル技術の進展などが、印刷業界を取り巻く環境に大きな影響を与えました。原材料費・エネルギー価格・物流費などの高騰は続き、あわせて賃上げといったコスト増に向きあいながら、わたしたちの業界は、適正な価格転嫁や生産性の向上といった大きな課題に対応を求められる一年であったと言えます。しかし、こうした課題がある中でも、多くの組合員事業所が前向きに取り組み、業界全体の意識が少しずつ次のステージへと変化しつつあることも確かです。

さて、近年国が推進し始めている「ローカルゼブラ企業」という概念をご存じでしょうか。2017年に米国の4人の女性起業家が提唱した概念で、急成長するベンチャー企業のアンチテーゼとして誕生しました。企業の利益追求と社会貢献という一見相反する要素をゼブラの縞模様のように調和・両立し、地域課題を解決して社会に良い影響をもたらしていく企業を表しています。国は、これからの日本はローカルゼブラ志向の企業が地域社会を支えていく、という方向性を示しています。

この理念にあてはまるのは、実は印刷会社であると強く思っています。印刷会社は長年の事業活動のなかで、地域に密着して深い関わりを紡いできました。派手さこそありませんが、地域の企業や行政、学校、文化の営みを支えてきました。情報を整理し、歴史や記録を文字化し、表現力で価値をカタチにして伝える。単に印刷をして生産するだけでなく、情報を編集し、価値を可視化して伝える力をもっています。

そして、京都という地は、歴史と文化的な背景をもつ街として、観光、伝統文化、学校、寺社仏閣、また100年以上続く老舗、独自の経営哲学や家訓を守りながら商いをしている企業も多く、私たちもお客様も同じ世界観の中にあります。こうした長年築きあげてきた地域密着のスタイル

を更にもう一歩踏み込み、印刷を通じて人・企業・行政・NPOなどをお互いにつなげて連携し、ハブの役割を果たしていけば、ビジネスチャンスが増えるだけでなく社会に貢献できるローカルゼブラ志向の企業として新たな価値を創造していけるのではないかと考えています。京都はブランドを大切にしている街であり、サステナブルな経営や環境問題についても関心は高いです。まだまだ、生き残っていく知恵が一杯に詰まっています。

大船に乗れば未来が見えるといった時代ではなくなりました。印刷業界の歩み方は一社ごとに大きく異なっていくことでしょう。専門特化を進めて価値を高める企業、設備投資で技術力を高める企業、AIやデジタル化で効率と品質を向上させる企業、ファブレス化で軽い経営基盤を実現する企業。どの道にも正解があります。大切なのは自社の特色を明確にして磨き続けることです。とはいえ、請負中心で課題解決型の領域に踏み込むのは難しいと感じておられる企業もあると思います。そのときにこそ、私たちには組合があります。企業同士が協力しあえる組合の“つながりの場”を活かして、企画提案が得意な企業と技術力に優れた企業が手を組む、生産管理が強い会社とデザイン力のある会社がパートナーとなる、足りない部分を補い合いながら、ひとつの課題に向かって連携していけるのは組合という枠組みがあるからです。組合は「情報を届け、学びの場をつくり、組合事業所間の連携を促す」ことができます。組合員事業所の皆さまがそれぞれの課題に取り組む中で、より効果的な解決策を見つけていただけるよう、引き続きサポートを続けてまいります。

結びにあたり、印刷業界がこれまで数々の困難を乗り越えて進化を続けてこられたのは、業界全体が一丸となり、時代の変化に柔軟に対応してきたからにほかなりません。2026年もまた、組合員事業所の皆さまと共に歩むことで、変化を恐れず、業界の未来を切り拓いていけると確信しております。

本年が皆さまにとって実り多き一年となりますことを祈念いたしますとともに、印刷業界のさらなる発展に向けて共に努力してまいりましょう。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。





## 未来に向けて 輝き続ける 京都づくりに挑戦

京都府知事  
西脇 隆俊

あけましておめでとうございます。組合員の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、「大阪・関西万博」の開催を通じて、多くの方に京都の伝統から革新までさまざまな魅力に触れていただきました。また同時に、文化庁の京都移転から3年目を迎え、国と協力して新しい文化政策を京都から創り上げ、世界に向けて発信できたことにより、改めて、京都の文化力の奥深さを再認識する機会ともなりました。

「美しい花を咲かせ続けるには、停滞することなく、変化し続けなければならない」。これは、室町時代に能を大成した世阿弥が「風姿花伝」に残した後人への心得です。当時の大衆芸能であった猿楽を磨き上げ、日本が世界に誇れる芸術である能へと昇華させていった世阿弥は、常に変化を恐れず進化していく努力の大切さを花に例えて説きました。千年の京都の歴史と文化も、そのときどきの先人たちが絶え間なく変化を繰り返して育てあげてきた、かけがえのない財産であり、国内外から多くの方が訪れる京都の魅力の源泉です。そして、時代の変化を柔軟に受け容れ、常に技術の進歩を人々の幸せにしなやかに結び付ける文化と心根が、今も昔も京都でイノベーションを生み出し続ける原動力となっています。

本年は、こうした先人たちからの「贈りもの」を活かして、人と人との絆や京都府と府民の皆さまとの信頼関係を大切にしながら取り組んできた、京都府総合計画の最終年度を迎えます。全ての営みの土台となる安心を確かなものとし、府民の皆さまが、未来を担う子どもたちをあたたく育みながら、将来に向かって夢を抱いていける、「あたたかい京都づくり」を実感いただけるよう、取り組んでまいります。

私たちが生きる現代は、人口減少・少子高齢化に加え、気候変動やAIによる技術革新など、大きな変革期にあります。先行きを見通せない今こそ、京都の魅力を支える府民の皆さまや京都を訪れる多彩な人材と共に、先人から引き継いだ京都の魅力の源泉を磨き上げてまいります。そして、今年の干支「午」が象徴する、飛躍し、力強く前進する馬の如く、直面する課題を一つずつ乗り越えながら、前へ前へと絶えず成長を続ける、輝き続ける京都を実現してまいりたいと考えております。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。



## 京都の理想の 実現に向けて 歩み出す一年に

京都市長  
松井 孝治

あけまして、おめでとうございます。

皆様にとって素晴らしい一年となりますことを、心からお祈りいたします。

さて、昨年末に、京都が千年以上にわたり継承してきた自然、歴史、文化などの「まち柄」を確認し、世界と日本、そして京都の現状を踏まえ、2050年を展望した京都のまちの羅針盤となる「京都基本構想」を策定しました。この構想は、京都の各分野を代表する方々、高校生や大学生をはじめ、25年後の京都でオピニオンリーダーになるような若い方々など多くの市民の皆様と、京都のまちが未来に向けて何を大切にすべきかについて意見を出し合い、議論を重ねた結晶です。

今後はこの構想の理念や価値観を抛り所に、「新京都戦略」を改定するなど、具体的な政策を展開していかねばなりません。

京都では長い都市の歴史の中で、祇園祭をはじめとする年中行事や、人間の極致を体現する伝統産業や芸能、そして自然と共生する暮らしの文化が育まれてきました。これらを支えてきたのが、文化芸術、学問、産業、歴史、スポーツ、地域活動など、京都のあらゆる分野で技藝や技能を有し、人を惹きつける磁力を持つ方々、いわば「京都学藝衆」です。これらの方々の技や経験、想いを次の世代へと大切に伝えていくことが地域や国内外の人々から愛される唯一無二の価値を持つ京都の未来につながります。

京都市といたしましても、公園や図書館といった公共空間をもっと市民の皆様に関き、未来を担う子どもたちや若者が、市井に息づく豊かな知恵や学藝に触れる機会を創出し、「夢中」と「感動」が溢れるまちを実現してまいります。

そして、文化芸術、ものづくり、自治の伝統など京都の強みを生かし、若者の起業支援や新産業の創出、企業誘致などの取組を推進し、多彩な人々が交ざり合い、新たな価値を創造し、日本中、世界中の人々から、住みたい、働きたい、活躍したいと思われ、選ばれるまちを目指して様々なチャレンジを重ねてまいります。

新たな四半世紀に向けたスタートとなる今年の干支は「丙午(ひのえうま)」です。物事を力強く前進する意味が込められています。様々な課題を乗り越え、今日の京都の発展を築いてこられた先人の心意気を大切に、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる。そのような京都の理想の実現に向け、力強い一歩を踏み出してまいります。



## “ほんまもん”を結わう ～変革と挑戦～

京都商工会議所  
会頭

堀場 厚

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今世界ではAI・人工知能をはじめとする技術革新や新興国の市場拡大が進み、日本でも賃上げや投資の動きから、経済に前向きな流れが生まれています。この追い風を力に変え、京都は文化と産業の融合によって、「変革と挑戦」を進める一年にしたいと考えています。

昨年を振り返ると、国内では連立政権の枠組みの変化、史上初の女性首相の誕生、日経平均株価は最高値更新など、新たな時代の到来を感じさせる出来事が続きました。一方で、米国による関税措置や深刻な人手不足、原材料・燃料価格の高騰など、企業の経営に影響を及ぼす課題も顕在化しています。しかし、こうした逆境こそ京都企業の底力を発揮し、イノベーションを推し進めるチャンスだと捉えています。

京都商工会議所では、昨年11月より「“ほんまもん”を結わう～変革と挑戦～」をスローガンに掲げました。京都には文化・学術・産業が有機的に交わる、他の地域にはない強みがあります。この豊かな土壌から、新しい価値を創り出そうという動きが芽吹いており、今こそ「伝統」と「革新」が両立する京都の底力を発揮する時と考えます。京都企業それぞれが培ってきた唯一無二の価値を商工会議所が結び合わせ、「推進力」に変えて、変化の激しい社会経済の中でも力強く成長できるよう後押ししてまいります。

さらに京都の将来を見据え、経済界・大学・行政が協働し、重要政策課題について議論する「協議会」を設置し、経済活動の基盤となるインフラ整備や若者の流出防止、観光課題への対応など諸課題に取り組んでまいります。

令和8年は、60年に一度の勢いに満ちた躍動感ある、そして新しいことへの挑戦に最適な年と言われています。京都商工会議所は、地域と企業、人と人をつなぎ、京都に息づく「ほんまもん」の価値を結び合わせ、未来へバトンをつないでいく一年にしたいと考えております。皆さまの一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



## 連携の力で切り拓く 未来創造！

京都府中小企業団体中央会  
会長

安藤 源行

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年の干支は「午」であります。午は、力強く前へ進む行動力や飛躍を象徴し、物事が大きく動き出す年とも言われております。この勢いある年の始まりにあたり、京都府中小企業団体中央会といたしましても、皆様とともに歩みを進め、新たな成長と発展に向けた一步を着実に踏み出してまいりたいと存じます。

日本銀行をはじめ、政府、金融機関、経済団体は、足もとの経済状況を踏まえ、国内経済は緩やかな回復の動きが見られるとの見方を示しております。しかし、中小企業・小規模事業者を取り巻く環境には依然として大きな課題が残されております。原材料費・人件費等の上昇を価格に十分転嫁できない状況、慢性的な人手不足による生産・受注の制約、さらには将来の担い手不足への不安など、現場の声は極めて切実です。経営環境が好転しているとは言いきれず、将来に向けて重要な局面を迎える年になるのではないかと感じております。

こうした中、中央会が第一に取り組むべき課題は、現場の声を確実に行政に届け、必要な支援を要請し、施策として反映していただき、それらの情報を一日も早く事業者の皆様のもとへ届け、活用につなげることであります。価格転嫁、人手不足対策、事業承継や資金繰り支援など山積する課題に対し、全国中小企業団体中央会、府内経済団体、関係機関と連携しながら、実効性ある活動を本年も一層強めてまいります。

昨年は、国の「省力化補助金」をはじめ、京都府の「生産性向上・人手不足対策事業」や京都市の「ひと・しごと環境魅力向上支援事業」など、設備投資や人手不足対策につながる支援制度の活用促進に全力で取り組んでまいりました。本年も、昨年末に発表された国の「『強い経済』を実現する総合経済対策」や、府・市の補正予算に盛り込まれた支援策を適切に活かし、設備投資や人手不足への対応に役立つ制度が行き届くよう、皆様の前向きな取り組みをしっかりと支え、挑戦を後押ししてまいりたいと考えております。そして、何より中央会の使命である中小企業組合に象徴される連携組織の支援に全力を注ぎ、助け合いと連携の力による中小企業・小規模事業者の発展と地域の活性化に向けて果敢に取り組むとともに、各組合の基盤強化に向けた支援も引き続き、丁寧に進めて参りたいと考えています。

中央会は、創立70周年という大きな節目を迎えております。長年にわたり支えてくださった会員の皆様、関係各位に改めて深く感謝申し上げます。令和7年6月20日に記念式典の実施に続き、本年2月22日には「未来創造！京都府中小企業組合 組合フェア in みやこめっせ」を開催し、一般の来場者の皆様にも広くご参加いただける場を設け、中小企業組合の魅力発信と地域とのつながりの強化、将来の担い手の確保につなげてまいりたいと考えています。ぜひ、組合員の皆様、ご家族の皆様、多くの方々に足をお運びいただければ幸いです。

結びに、中央会はこれからも皆様と共に山積する課題に真摯に向き合い、府内中小企業・小規模事業者の持続的発展に全力を尽くしてまいります。会員の皆様には、引き続き中央会の活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。





## 2026年 年頭所感

一般社団法人  
日本印刷産業連合会 会長

厩 秀晴

令和8年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
旧年中は、日本印刷産業連合会(日印産連)の運営に多大なる  
ご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年日本経済は、好調なインバウンド需要や高水準の賃上  
げが景気を支える一方、物価上昇と人手不足が景気全体の回復  
を鈍らせました。

印刷産業においても、急激な労務費、原材料費、エネル  
ギーコストの上昇が各企業に大きな影響を与えており、物価  
上昇分を確実に価格転嫁していくことが喫緊の経営課題とな  
りました。

政府は、物価高に負けない賃上げと、国内への成長投資が進  
む環境を作ることを経済政策の最重要課題として、サプライ  
チェーン全体での価格転嫁・取引適正化に徹底的に取り組むよ  
う、すべての産業に要請しています。

また、本年1月1日より「下請法」が改正され、「中小受託取  
引適正化法(通称「取適法」)」として施行されました。中小受託  
事業者における賃上げの原資の確保と利益保護を目的として、  
中小受託取引の適用対象が拡大し、義務内容・禁止行為が厳格  
化されています。特に手形払いについては禁止となり、支払い  
期日の厳守が求められることとなりました。「取適法」および自  
主行動計画の遵守に向け、発注側・受注側ともに積極的に協議  
の場を設けていただくようお願いいたします。

一方で印刷産業は受注産業であり、サプライチェーンの頂点  
となる発注元への働きかけが欠かせません。日印産連は主要発  
注元の業界団体に対して、価格転嫁と商習慣の見直し等、取引  
適正化の協力要請に取り組んでまいりました。会員10団体並  
びに賛助会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会全体のDXやAI活用が進み、事業環境だけではなく、  
人々の生活までも大きく変わっていくなかで、我々印刷産業は  
長年培われた印刷技術を核に、時代の変化に対応した事業ポ  
ートフォリオ変革に取り組まなければなりません。「高付加価値  
コミュニケーションサービス産業」として社会に求められ続け  
る産業であるために、会員10団体が力を合わせサプライチェ  
ーン全体での取引適正化に取り組み、新たな価値創出、事業領  
域の拡大に向けた連携・共創を推進します。

日印産連は本年も、印刷産業の価値向上と持続可能な社会の  
実現に向けて、関係省庁、会員10団体、賛助会員、関係業界団  
体の皆様と共に様々な活動を行ってまいりますので、皆様には  
引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと  
ともに、さらなるご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさ  
せていただきます。



## 新年のご挨拶

「足元を固め、価値協創を」

全日本印刷工業組合連合会  
会長

瀬田 章弘

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より全日本印刷工  
業組合連合会の各事業に対しご理解とご協力を賜り心より感謝  
申し上げます。

2026年は地政学的な諸問題、貿易関税の問題やインフレ経済  
移行への諸問題などを昨年から引継ぎスタートしました。歴史  
を振り返りますと激動期を生きた孟子は物事を成し遂げるには  
天の時、地の利、人の和が重要で、特に人の和が最も大切と説  
いております。これは我々が掲げるCSR経営に通ずるものと思  
われます。一方、天地人の言葉の中で今年のキーワードは  
「地」であると私は考えております。地とは、地理・地勢を意  
味し現場・地盤・地域・地球といった意味をも内包するもので  
す。我々印刷産業は「足もとを確かめ、産業を再構築する」こ  
とを早急に進めなくてはならないと感じています。AIなど技術  
革新が加速度的に進む一方、現場と地域に根差した新たな価値  
創出こそが、印刷産業が未来へ歩みを進める上で不可欠である  
と思います。

ところで価値創出を実践するにはまず確かな地盤が必要で  
す。本年、まず重視して取り組むのは「取引適正化」と「知的  
資産の保全」です。これまで印刷業界では価格転嫁や権利処理  
が十分に行われず、企業の持続性を損ねるケースも散見されま  
した。取適法が施行される中、その根本的課題に向き合うため  
経済産業省の確認を得たうえで、業界として初となる統一的な  
「基本取引契約書の雛型」を策定し、全国での普及を進めま  
す。これは単なる書面整備にとどまらず、印刷産業が社会から  
信頼される商慣行を確立し、次の世代に健全な産業基盤を引き  
継ぐための重要な礎となるものです。

さらに地域社会との連携強化も本年の大きなテーマです。印  
刷会社は行政・教育機関・企業団体などあらゆる産業と接して  
おり、地域経済のハブとして独自の強みを持っています。こう  
した地域密着の特性を生かし、自治体や地域の課題解決支援を  
行うローカルゼブラ企業を目指し多様な分野での協創の推進役  
になるべきと考えております。

また、地球を考える環境対応はもはや避けて通れない課題で  
す。環境配慮認証制度の普及、CO<sub>2</sub>排出量の算定、印刷工程の  
省エネ化支援、企業の実務に直結する支援策をさらに拡充して  
いく所存です。同時にデジタルメディアには無い紙メディアの  
価値を広く社会に発信することも推進して参ります。

2026年は印刷産業が「新たな成長の地固め」を進める一年と  
なることを目指し、変化の波にただ流されるのではなく、現場  
の知見を尊重し、地域に寄り添い、技術革新を柔軟に取り入  
れ、共に未来を切り開いて行く年としましょう。

本年が、印刷産業にとって新たな飛躍の年となるよう、引き  
続き皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げますととも  
に、各組合員のますますのご発展と皆様のご健勝を心より祈念  
し、年頭のご挨拶といたします。

## 2026年 年頭所感



京都府製本工業組合  
理事長

### 大入 達男

新年あけましておめでとうございます。  
組合員の皆様におかれましては、令和8年の新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、旧年中は多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。

昨年、創立記念事業として「百年の歩み」をまとめた冊子をお配りいたしました。先人たちが築き上げてきた技と心をあらためて辿ることで、私たちの仕事が文化を支え、人々の知を未来へつなぐ営みであることを深く実感した次第です。編纂にあたりご協力いただいた皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

近年、文字離れが叫ばれて久しい状況ではありますが、書物は今も人が異文化を知り、新しい世界へ踏み出すための伴走者であり続けています。手に取れる形として記録し、蓄え、受け渡すという役割は、デジタルだけでは代替できません。だからこそ、私たち製本に携わる者は、その価値を次世代へ伝えていく責務を負っております。

また、組合に目を向けますと組合員の減少など、色々と課題がある状況です。組合組織や運営方針などこの先の100年に繋げる為に、我々自身をどうしていくか、知恵を出していく年でもあります。

本年は次の百年へ踏み出す2年目の年となります。技術継承や若手育成により一層力を注ぐとともに、環境への配慮や新たな表現、新しい技術への挑戦を重ね、書物と文字の文化を支える基盤を強固にしていきたいと思います。

結びに、皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げますとともに、組合活動への変えらぬご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 新年のご挨拶



京都府紙器段ボール箱工業組合  
理事長

### 中川 仁

新年あけましておめでとうございます。  
皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は当組合の運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

印刷と紙器は、古来より「情報を伝える」「商品を守り届ける」という異なる役割を担いながら、共に紙文化を支えてまいりました。近年はデジタル化の進展や環境対応の要請により、両業界とも大きな転換期を迎えております。資源循環や省エネルギーへの取り組みは避けて通れず、持続可能な社会に資する産業としての責務は一層重みを増しております。

京都には、全国でも稀有な印刷関連7団体の協議会があり、新年互礼会やものづくりフェアなど様々な場面で互いに協力し合っております。情報を伝える印刷と、商品を守る紙器包装など、各組合が補完し合うことで、地域経済と生活文化に新たな価値を創出できると確信しております。

本年2026年も、関連7団体が交流を深め、次世代に誇れる産業像を築く一年としたいと存じます。少子高齢化や労働人口の減少など、需要の大きな変化に直面する時代にあっても、環境負荷の低減や人材育成に取り組むことで、京都から全国へ、そして世界へと発信できる成長産業モデルを共に描いてまいりましょう。

結びに、皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年ご挨拶



一般社団法人  
日本グラフィックサービス工業会  
京都府支部 支部長

### 立木 哲生

明けまして、おめでとうございます。  
旧年中は、当会に対しまして、並々ならぬご厚情を賜りまして、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

印刷業界を取り巻く環境は、デジタル化の進展や情報メディアの多様化など、大きな転換期を迎えておりますが、京都の地に培われてきた歴史と文化を背景に、「伝える力」「かたちにする力」を担う私たちの役割は、これまで以上に重要になっているものと感じております。

またそれを実現するためにも、DXやAIの活用、様々な業態変化が印刷会社に求められています。

当会といたしましても、メンバー各社とともにこの変化に対応すべく、勉強会・セミナーなどを通して、試行錯誤している状況です。

今後も同じ京都で同業の企業活動している京都府印刷工業組合の皆様と、親睦、情報交流を深めて参れたらと考えております。

何卒引き続き、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶



京都紙工協同組合  
理事長

### 波部 郁司

新年あけましておめでとうございます。  
旧年中は印刷工業組合の皆さまには何かとお世話になり、心より御礼申し上げます。また、日頃より京都紙工協同組合の活動にもご理解とご支援を賜り、重ねて感謝申し上げます。

このたび、京都紙工協同組合の理事長を拝命し、新たな気持ちでこの一年をスタートさせていただきました。長い歴史の中で、業界を支えてこられた諸先輩方の努力とご尽力を思うと、その歩みを引き継ぎ、次の世代へとつなげていく責任の重さをあらためて感じております。

ここ数年、印刷・紙工業界を取り巻く環境は大きく変化しています。デジタル化の進展や人手不足など、課題は少なくありませんが、その一方で、紙の持つ温もりや質感、安心感といった価値が、改めて見直される場面も増えてきました。私たちは、そうした「紙ならではの良さ」を大切にしながら、新しい時代に合った提案や生産体制を模索し続けることが求められています。

今後は、印刷工業組合の皆さまとより一層の連携を深め、互いに知恵を出し合いながら、技術・品質・環境の面でより高い水準を目指していきたいと考えております。また、若い世代が安心して働ける環境づくりや、ものづくりに誇りを持てる職場づくりにも力を入れてまいります。

本年も、皆さまと共に学び、共に成長しながら、業界全体の発展につなげていければ幸いです。

皆さまにとりまして実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶



京都シール印刷工業協同組合  
理事長

### 山田 裕彦

皆様、新年あけましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

さて、印刷関連団体の昨年を振り返りますと、私としては例年と同じく11月に開催された「京都ものづくりフェア2025」において、優秀な小間に授与される「奨励賞」をいただけたことが一番嬉しかったです。

規模も縮小され参加団体も年々減少しており、今年は3団体のみの表彰となりましたが、これまで関連団体で培ってきた「団結力」によるものだと考えています。しかも、担当者による打ち合わせ会議を4回から3回に減らしての受賞ですから、意味は大きいとも思っています。

更に今回の受賞で、我々の団体は5開催連続の受賞となり、規定により「特別賞」もいただきました。コロナ禍により3年間表彰なしのブランクがあったので、2018年の受賞からカウントされての連続受賞でしたが、期間が空きすぎていて実はイベント当日まで誰も気がついていませんでした。

そんな中での表彰という事で、なかには「何の表彰？」と思われたスタッフの方もおられたようです。私の記憶では、前回の特別賞は3団体が授与されたと思います。という事は、連続して奨励賞を受賞し続けているのは、我々印刷関連団体だけと言う事になります。これも誇れる事だと思えます。

兎にも角にも、これでひと区切りつけられたと思います。ここからは、次のステップに向けて進化をしていく必要があるとも考えています。つきましては、関連団体の皆さんと話し合いながら形を作って行きたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

最後に、業界の皆様の益々のご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭所感



京都グラフィック  
コミュニケーションズ協同組合  
理事長

### 木村 進

新年明けましておめでとうございます。  
旧年中は皆様に温かいお付き合いをいただき、誠にありがとうございました。本年も変わらぬ、また旧年以上のお付合いを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返り感じましたことは「変化」の多さです。新聞記事を綴り困惑してしまいました。「防衛費増額・所得増税・物価上昇でインフレ・円安・株高・金利のある世界へ・更に金利上昇・トランプ大統領の関税・政策の変化・AIの進化・M&A・半導体投資を各国が支援・ロボット化・自動化・無人化・完全自動運転レベル4へ・EV自動車中国の台頭・日本車の逆輸入・日中紛争・ウクライナの平和未解決・安全保障問題・令和の米騒動・人材不足・後継者不足・賃上げ・70才以上の高額療養費問題・利益が上っているのにリストラ・ブラックフライデーの影響で一時取引停止・ランサムウェアによる営業停止」等々、様々な記事が書かれていました。

歴史を振り返りますと、平和・戦争、平和・戦争を繰り返しています。ただただ平和で安心して生きていける世の中になることを切望しています。

話は変わりますが、印刷関連7団体の活動を堅実に運営し、継続して頂いていることに深く感謝しております。当組合もこの一年間、着実に邁進できますように努力して参ります。継続は力なりと言います。毎日の努力の継続で組合力を身に着けようと思っています。皆様のお力添えを頂戴できますよう切にお願い申し上げます。

最後に皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶と致します。



2026

## 新春 特別企画

NEW YEAR



セミナー会場

# REPORT OF STUDY SEMINAR

京都府印刷工業組合 教育研修セミナー講演実施レポート

## 「印刷会社の経営者が今、 知っておくべき生成AIの現状」

生成AIとの共創が、印刷会社の未来を変える



【講師】富澤 隆久氏(全印工連常務理事・教育委員会SV)

当組合では昨年11月11日(火)、全日本印刷工業組合連合会常務理事・教育委員会SVの富澤隆久氏を講師に迎えた教育研修セミナー「印刷会社の経営者が今、知っておくべき生成AIの現状」を開催致しました。セミナーでは、生成AIを使ってできること、業務効率化・作業効率アップのための活用策、事例など、印刷会社の経営者が知っておくべき生成AIの現状についてわかりやすく解説して頂いた後、組合員限定の特別価格で提供される「ライセンスプログラム Edition4」にパッケージされている「Adobe Firefly」の最新機能の活用術を解説して頂きました。

2026年新春号の特別企画では、「生成AIとの共創が、印刷会社の未来を変える ～Adobe Fireflyと私たちの『働

き方』の再定義～」をサブテーマに掲げ、当日ご参加いただけなかった組合員の皆様にも広く内容を共有すべく、富澤氏に改めて本レポートをまとめて頂きました。

社員一人ひとりのキャリア形成の観点から生成AIの習得を促すアプローチや、顧客へのデモンストレーションを通じたAI技術への関心喚起といった実務的な取り組みで、印刷業に新たな価値をもたらす可能性を提起されています。後半は「Adobe最新テクニカル・アップデート」と題し、Adobeの新機能や生成AIテクニックが紹介されています。

経営者の皆様はもとより、DTP実務者にも参考にして頂ける内容となっています。是非ご一読下さい。

## 教育研修セミナー開催概要

**主催** 京都府印刷工業組合 教育委員会  
京都商工会議所  
**日時** 令和7年11月11日(火)  
**会場** 京都印刷会館2階「第1会議室」  
**参加者** 24社30名  
**講師** 富澤 隆久 氏(全印工連常務理事・教育委員会SV、ティーオーホールディングス㈱代表取締役)



質疑応答

# 生成AIとの共創が、 印刷会社の未来を変える

## Adobe Fireflyと私たちの「働き方」の再定義

### ■生成AIを使いこなせるのか？ 印刷会社が直面する現実

「生成AIを使いこなさなければ、ウチの会社は取り残されてしまう」。全国の組合員の皆さまから、そんな切実な声を聞くようになりました。同時に、「現場が生成AIを積極的に使ってくれない」というお悩みも多く聞きます。経営者は、生成AIがこれからの印刷やデザインに革新をもたらすと期待しているものの、AdobeのアプリケーションやFireflyに関して実務者として詳しい知識を持っていないため、生成AIの活用術を直接、社員へ指導できないのがもどかしいところだと感じます。その反面、Adobeのライセンス購入やPCを含めたDTPの設備投資に関して最終判断を下すのは経営者ですので、デザイン現場から上がってくるテクニカルな要望をどこまで経営者が理解できるかということが、今後、生成AIを含めた最新技術の導入・社内定着の重要な鍵になるのは間違いないと考えます。そして、現状は、このあたりにも経営者とデザイン実務者とに大きな考え方の隔たりが存在していると見受けられます。

弊社・富沢印刷の場合でもそうでしたが、生成AIの導入に熱心なのは経営者で、デザイン現場は反対しているというケースはなぜ起こるのでしょうか？私は社内のデザイン制作に関わる全ての社員と意見を交わしたところ、次のような社員の心理が判ってきました。

「生成AIがデザインの仕事を一新する時代が到来したということも実感している。しかし、これまで懸命に身に付けてきた仕事のやり方も軽々しく変えたくはない。仕事に誇りがあるからこそ、自分のこだわりは大切にしたい」

デザイン制作の現場では、1文字の誤植も許されない厳しい世界です。徹底的なチェック体制や安全なデザインデータの作り方を身体に叩き込んできました。その「真面目さ」と「職人魂」があるからこそ、新しい生成AIに対して慎重になるのは当然のことだと私は気付いたのです。

また、経営者の皆さまは、次のような意見を社内で耳にしたことはありませんか？「Adobe Fireflyで作った画像の権利はクリアになっているんですか？曖昧な状態だとお客様に怖くて持って行けません」、「Adobeの新しいバージョンはまだ検証が済んでいません。すぐに飛びつくのは危険ですよ」。これらも誠実に仕事と向き合ってきたからこそ出てくる社員なりの「真面目な」反対表現だと今では思えるようになってきました。

### ■社員にリスペクトの気持ちを贈る、 そして一緒にトレーニングを

弊社の場合は、まず社長である私からデザイン制作チーム全員に、「その誠実さに心から感謝している」と、全社会議の場でリスペクトのメッセージを出すことから始めました。そして次に毎週木曜朝に20分間のAIトレーニングを社長も交えて実施しました。デザイン制作チーム全員でAdobe Fireflyを試して、生成された画像を見て笑ったり(時にはプロンプトによって、全く見当違いの画像が出力されることがあります)、良い作品を投票したりしました。小さな成功体験を重ねていくことが、生成AIを自分ごととしてマスターしていける第一歩と考えます。

また、私は社員に対して「自己投資」という考え方も伝えました。

「Adobe Fireflyをマスターするのは“自己投資”です。3年後、あなたの周りではFireflyを使いこなす人が当たり前になっているでしょう。そのとき“まだ使っていない人”でいたら、取り残されます」

生成AIの習得は、会社のためだけでなく、社員個人のキャリアのためと社員にはとらえてもらいました。今こそ、プロとしての未来に向けて、自分を磨くタイミングだと考えます。

### ■生成AIは人の働き方を「拡張」する

徐々にでもデザイン部門で積極的に生成AIを使えるような社員が増えてきたら、次には、お客様を訪問し、Adobe Fireflyの最新AI能力を解説しデモを行なってください。多くのお客様は、私たち印刷会社が説明する生成AIの使い方、デモンストレーションに大きな関心を寄せているのです。このお客様への解説・デモは、月1回



くらいのペースで、定期的に継続するとよりビジネスメリットが出てくるでしょう。3～4回継続すると次第にお客様から「生成AIでこんな画像を作れないか？」などのリクエストが出てきます。ここが新しいビジネスの始まりとなるのです。

では、そのようにお客様のところへ訪問し、生成AIの解説・デモをするのは誰が行うべきでしょうか？経営者が出向いて行ったほうがよいでしょうか、それとも営業担当者でしょうか？この機会に苦労して生成AIをマスターしたデザイン担当者がお客様へ解説・デモをするべきです。

デザイン制作やDTP作業に従事する社員は、どちらかというお客様とコミュニケーションを取る機会が少ないため、対人での仕事に苦手意識を持ちがちです。デザイナーやDTPオペレーターに対して、お客様のところに行くようにと指示しても、最初は反対されることは簡単に予測がつきます。例えば、「失礼な話し方をして、お客様の心象を悪くしてはいけません」と言った、反対表現が出てくるでしょう。これまでの仕事に対する誠実さからくる反応ですので、同じく、社長からリスペクトの気持ちを伝えましょう。そして、社員は、徐々にたどたどしくもAdobe Fireflyをマスターした生成AIのエキスパートとして、独特の熱のこもった説明・デモができるようになります。その熱量こそが、お客様に刺さるのです。生成AIはコミュニケーションを苦手としていたデザイナーのコミュニケーション能力を引き上げてくれたのです。

## ■デザインの民主化と 印刷会社が発揮すべき創造力

2025年10月末に米国・ロサンゼルスで開催されたAdobe MAX 2025では、Adobe Fireflyの新機能が数多く発表されました。PhotoshopでのマルチAIモデル選択、Premiereでの動画生成拡張、Illustratorでの生成拡張など、クリエイティブの世界における生成AI技術は歴史上初めての最大の盛り上がりを見せています。そして、印刷会社のようなプロフェッショナルでなくても、つまり一般企業のお客様でも、自らが手軽に生成AIを利用してデザインができてしまう時代になりました。一般の人々が専門知識を学ぶことなく、手軽に、質の高いグラフィックや映像を作れるようになりました。もはや、Adobe Fireflyは印刷会社のデザイナーだけのものではなくなりつつあります。

そのためにも、私たち印刷会社はより密接にお客様と同じ認識を共有すべきです。そして、私たち印刷会社が提供できるクリエイティビティを常に提示し、理解していただくことが重要です。お客様のコンテンツ作り、ブランディングに深く入り込むことができるチャンスがAdobe Fireflyによって大きく広がっているのです。これこそが、生成AIと共に「未来の働き方」を形作ることになるのです。

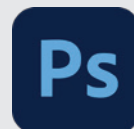
# Adobe

## 最新テクニカル・アップデート

新機能や旧来との改善点、画像素材を合わせた生成AIテクニック等をご紹介します

### 1. Photoshop

調和や新調整レイヤーなど  
合成の品質が改善



色調や光影の統合処理を自動で行うツールが強化されました。調和機能で、異なる画像要素の色や陰影の合成を自然な仕上がりにします。新調整レイヤーの追加により効率的になりました。

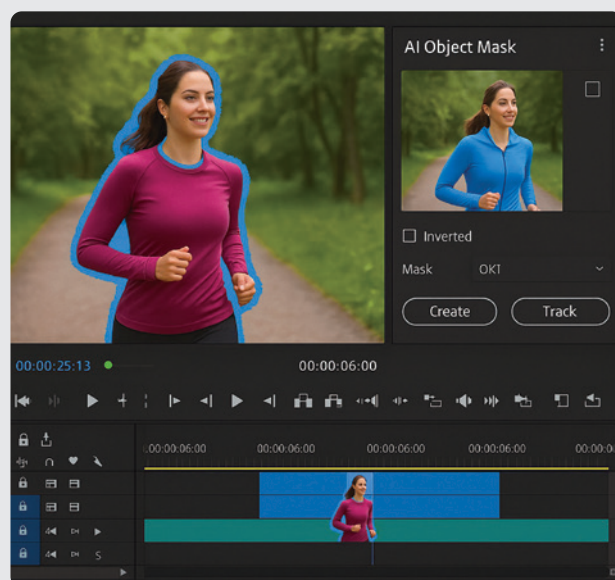


### 2. Premiere

自動マスク生成と  
トラッキングが強化



動画の中の人物や物体をAIが自動検出し、ワンクリックでマスクを作成・追跡が可能です。動画編集の作業が大幅に削減され、品質の高いビジュアル表現を実現できます。



### 3. Adobe Blog

豊富なFireflyの事例と  
プロンプト例を掲載



生成AIで狙った画像を出力させるにはプロンプトが重要です。Adobe Blogでは、数多くのクリエイターによる事例紹介(動画)と実際のプロンプトが載っているので、要チェックです。



### 4. Illustrator

ベクター生成機能が強化



複雑な形状やディテールも滑らかに生成できます。手描きスケッチを高品質なベクターアートに変換してアイコン制作を効率的に進行できます。



(文責 編集委員会)



ご存知ですか？

組合員事業所様はAdobeCCを  
特別価格・プラン・サポートで  
ご利用できます！

Adobe Creative Cloud(略称: CC)を組合員に特別価格・プラン・サポートで提供する「特別ライセンスプログラム“CC”」の募集を行っています。全印工連のスケールメリットを最大限に活かし、大変有利な条件で“CC”を導入できます。令和7年12月より新契約「Edition4」がスタートしました。この機会に是非ともご活用下さい。詳細は事務局(075-312-0020)までお問い合わせ下さい。

